

今回は、小麦粉・米粉・片栗粉などの粉に、水や絵の具を加えて遊ぶ造形活動を行いました。

最初は白い粉に触れるところから始まりました。子どもたちは、粉を手に取りながら「雪みたい」「サラサラしてる」「いい匂い」と、それぞれの違いを感じ取っていました。見た目は似ている粉でも、触ってみると、しっとりしていたり、ざらざらしていたり、キュッとした感触があったりします。子どもたちは、自分の手でその違いを確かめていました。

そこへ水を加えると、粉は少しずつ姿を変えていきます。穴を開けたキャップ付きのペットボトルから水を入れ、混ぜたり、こねたり、すくったりしながら、粉がまとまる様子や、色が広がっていく様子を楽しみました。「泡出た」「茶色になった」と、変化に気付いた瞬間の声も聞こえてきました。

絵の具が加わると、遊びはさらに広がりました。色水を「いちごジュース」「キウイジュース」と名付けたり、黄色くなったかたまりを「ポテト」、手でこねたものを「ハンバーグ」と呼んだりする姿もありました。素材は、子どもたちの手の中で、粉から色水へ、料理へ、粘土のようなものへと、何度も姿を変えていきました。

決まった形を作る活動ではありませんでしたが、子どもたちは目の前の変化をよく見て、感じて、次に試したいことを見つけていました。作ることと遊ぶことが自然につながり、一人ひとりが素材とじっくり向き合う時間になりました。

